

報告

The 11th Joint Neurosurgical Convention 2026

内田浩喜

国立病院機構仙台医療センター 脳神経外科

(2025 年 3 月 30 日受稿、2025 年 3 月 30 日受理、連絡先：内田浩喜・仙台医療センター 脳神経外科)

2026 年 2 月 1 日から 5 日までハワイ州ホノルルで開催された The 11th Joint Neurosurgical Convention 2026 に参加しました。この学会は 1999 年に「国際 Mt. 磐梯神経外科シンポジウム」という名称で財団法人脳神経疾患研究所（元総合南東北病院）の渡邊一夫先生が栃木県日光市にて開催され、第 3 回目からは 3、4 年毎にハワイで開催されています。脳神経外科医の中では通称“Mt. Bandai”と呼ばれ、国際学会ながら日本人が多く参加し、かつハワイという響きがよい立地での開催で、我々の医局からも過去に多く参加したことのあつた学会です。今回は、例年通り Prince Waikiki を会場に、群馬大学の太田宗一先生と関東脳神経外科病院長の清水暢裕先生が会長を務められました。私は初めて参加させていただきました。医局からは他に遠藤英徳先生と真貝勇斗先生と永井新先生が参加しました。

2 月 1 日の 18 時頃、成田空港で待ち合わせをし、夜 21 時発のハワイ行きの飛行機に乗りました。ハワイとの時差はマイナス 19 時間で、約 8 時間のフライトですが時差の影響で、現地に着くのは 2 月 1 日の朝 9 時です。朝の 9 時にダニエル・K・イノウエ国際空港に到着してからは現地の Uber に乗りホテル会場まで向かいます。気候は 2 月ながら非常に暖かく、極寒の仙台から向かった我々にとってはかなりの寒暖差と感じました。初日の夜には Welcome Reception がありました。いつもの学会より小規模であるため、普段だと話す機会のない重

鎮の先生方と話すことができ、貴重な経験となりました。当医局におけるサブスペシャリティや新入局員確保の悩みは他大学でも共通の問題であると実感しました。

2 月 2 日から 5 日にかけて口演のセッションが行われます。この学会は午前中に各セッションが予定されており、午後は各自自由時間が設けられているのが特徴です。私はポスターセッションで、軟性鏡での脳室内膿瘍除去の新たな tips について仙台医療センターで経験した症例を発表しました。全体のセッション内容は、血管障害から脳腫瘍まで脳神経外科領域全般にわたり構成されていますが、頭蓋底手術や鍵穴手術に関連する特徴的な口演が多くあつた印象でした。2 月 3 日に開催された Official Banquet は、福島孝徳先生の追悼記念会となりました。この学会自体、渡邊一夫先生と親交のあつた福島孝徳先生と深く関わりのある学会でした。福島孝徳先生は 2024 年 3 月に 81 歳でご逝去され、今回の Mt. Bandai はご逝去後初めての開催でした。福島孝徳先生の弟子は世界中におり、日本のみならず海外から多くの弟子たちが Official Banquet に参加していました。日本の脳神経外科医が世界に及ぼしている影響力を目の当たりにし、大変誇りに思いました。

ハワイでの自由時間は少し観光に当てました。ハワイの物価は、全米の中でも高いようでした。適当に昼食を、アラモアナショッピングセンターのフードコートで済ませようとしても、一人当たり 25 \$ くら

らいかかります。量が多いですが、今の日本では考えられない値段設定です。華やかな観光地の印象とは裏腹に、ハワイでは多くのホームレスを見かけます。拡大する貧困格差に加え、過ごしやすい気候も相まってアメリカ本土からも流れてくるようです。海外に行くと日本での常識が覆され、毎回刺激になります。

今回は海外学会等旅費支給制度により旅費を支給していただき、大変感謝しております。学会を通じて、海外文化にも触れることができ、大変貴重な経験となりました。この経験を活かし、臨床業務に還元していく次第です。